

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

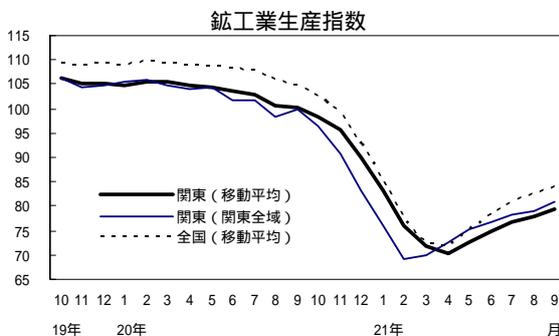
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 21 年 8 月)	今回 (平成 21 年 11 月)	
景況判断	下げ止まりつつある	下げ止まっている	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	持ち直している	
個人消費	緩やかに減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	極めて急速に悪化しつつある	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やか	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は持ち直している。(関東全域)

輸送機械は、環境対応車の需要増から小型乗用車の生産が増加したことにより、中近東や南米向けに普通トラックの生産が伸びたことなどから、大幅に上昇している。化学は、9月に新プラントによる生産増からポリプロピレンなどで上昇している。一般機械は、アジアの半導体メーカー向けを中心に半導体製造装置や印刷機械などで上昇している。電気機械は、医用X線装置などで上昇している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

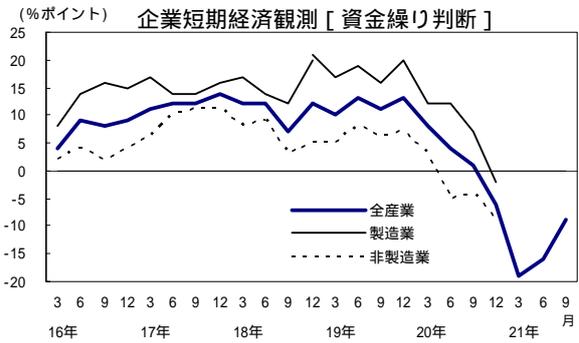
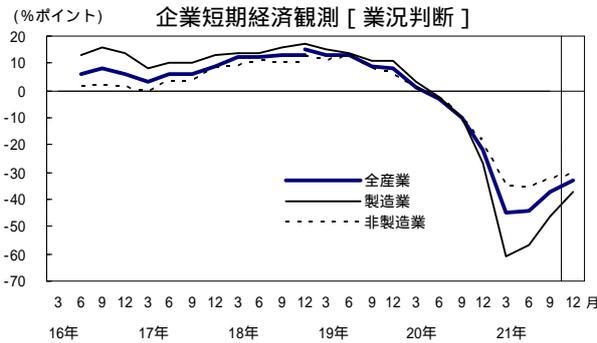
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	15.2	7.9	21.5	15.0	15.6
化学	13.4	3.9			
一般機械	13.2	15.2	5.4	6.0	10.2
電気機械	7.8	1.1	2.5	9.8	9.0
食料品・たばこ	7.1	2.6			
鉱工業	100.0	4.2	6.3	6.4	1.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

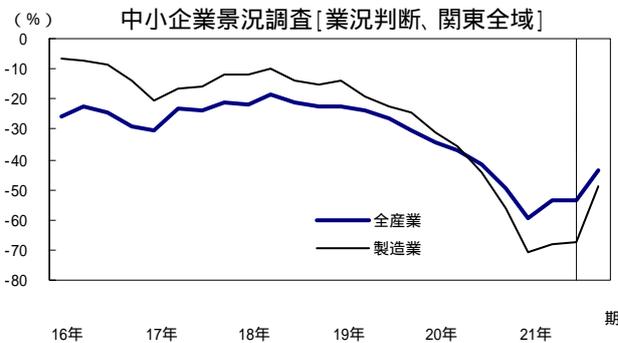
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測  
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)

(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。日本銀行横浜支店管内。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

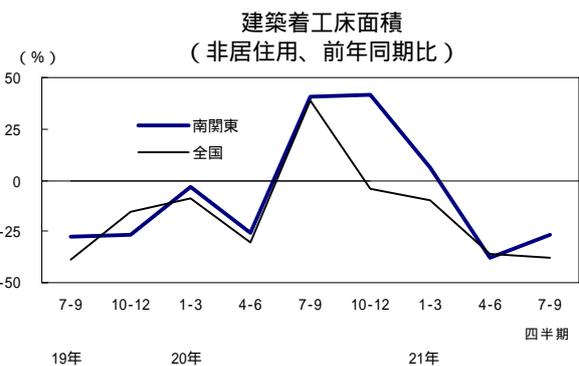
「受注量は中国向けだけが増えているが、中国向けはいずれ現地生産に切り替わるため、一時的な受注増と考えている。また、国内の製造製品は増えてこないため、この動きはしばらく続く(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	8.7	22.0( 4.3)
製造業	11.5	24.3( 4.7)
非製造業	2.7	16.2( 3.5)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。  
調査対象は神奈川県。



(4) 南関東

2. 需要の動向

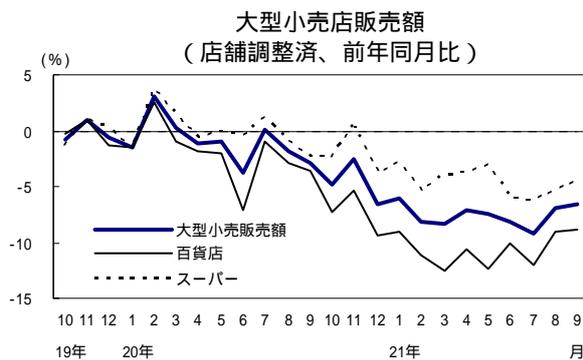
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

百貨店は、7月は、中元商戦におけるネット受注が好調であったが、全体としては衣料品を中心に振るわず、前年を下回った。8月は、高額の特選ブランドは依然厳しい状況にあるものの、値ごろ感のある一部の輸入ブランドでは復調の兆しがみられ、前年比の下げ幅が縮小した。9月は、依然低水準にあるものの、大型連休を含む前後の期間の各種企画や、新宿地区における3店舗同時開催の物産展などが活況をみせ、前年比の下げ幅が縮小した。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の10月の売上高は前年同月比13.1%減となっている。スーパーは、インフルエンザ対策としてマスクや除菌関連商材に動きはみられたものの、消費者の生活防衛意識は依然として高く、身の回り品、衣料品を中心に、前年を下回った。

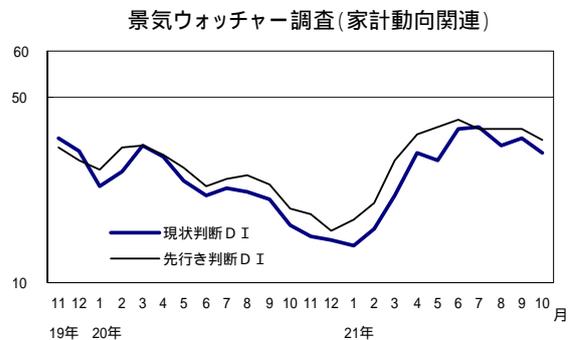
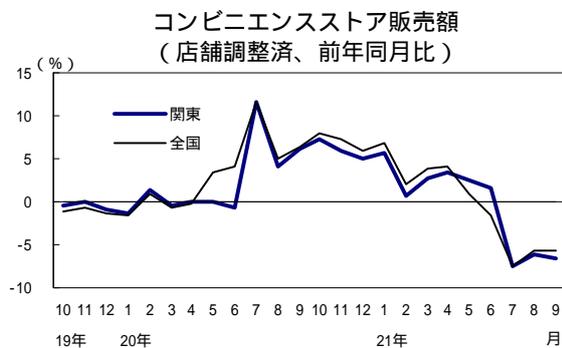
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「台数は出るようになったが、高額車種の売行きは依然として悪い(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.8	7.4	7.5	7.7
百貨店	7.5	10.9	11.1	10.3
スーパー	2.0	4.0	4.3	5.4
乗用車	17.5	27.6	20.2	1.6
景気ウォッチャー	20.5	22.9	39.2	41.4

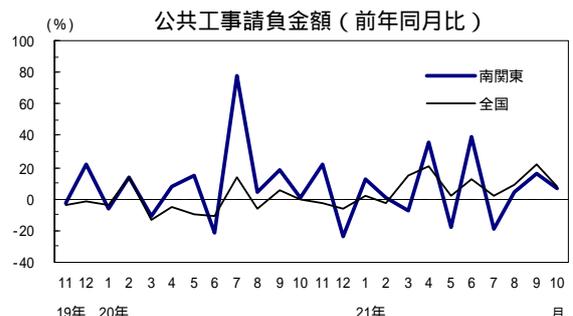
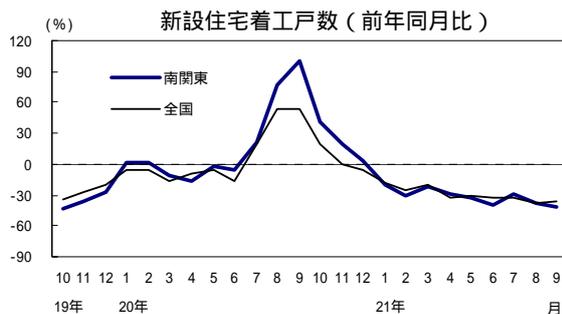
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。21年7-9月期は速報値。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

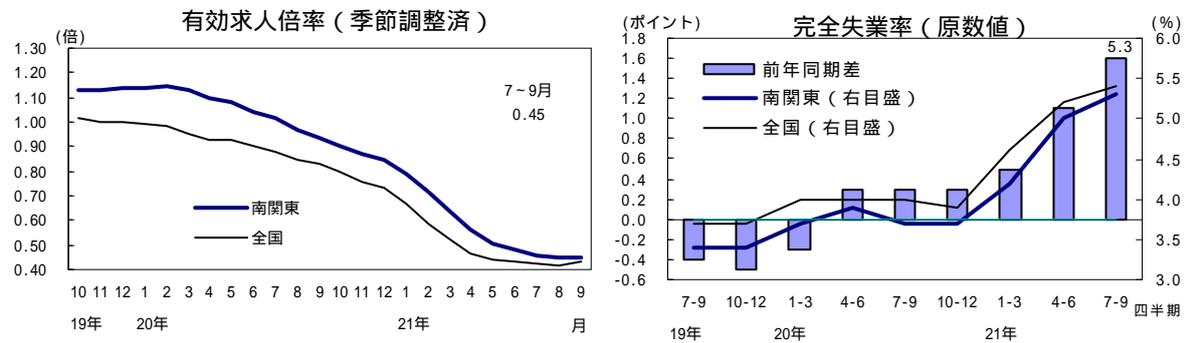
貸家、分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。

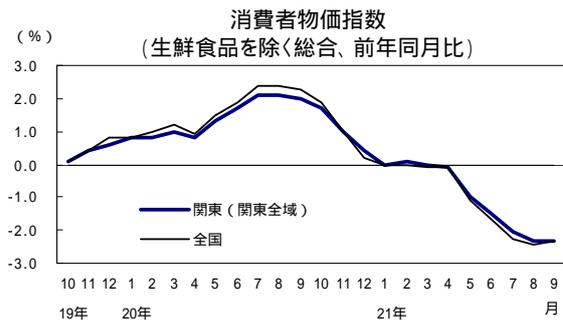


景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]  
「派遣や紹介予定派遣の動きは鈍いが、販売業務や環境関連産業においては受注が目立っている（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

#### 企業倒産

	（件、億円、％）				
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月	21年10月
倒産件数 （前年比）	1,212 16.1	1,321 28.1	1,249 12.2	1,263 4.3	369 11.7
負債総額 （前年比）	12,313 145.4	18,943 223.3	6,553 19.4	3,904 93.1	989 86.1



#### 景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

##### <現状>

- ・例年だとクリスマスに向けて装飾、イルミネーション等の受注に動きがあるが、今年はまだ動きが無く、昨年の使い回し等の実施もありそうである（広告代理店）

##### <先行き>

- ・昨年の年末商戦は、米国の大手金融機関の破たん直後で激しく落ち込み低迷した。今年はエコポイント制度による押し上げ効果もあり、対象商品を中心に期待できる。また、長期低迷が続いていたパソコンも新OSの登場で活気が戻る（家電量販店）

#### 景気ウォッチャー調査（合計）

